

ホタテガイ耳吊養殖の 付着物回避試験

付着物の軽減を目指して

特別調査研究推進チーム

函館水産試験場室蘭支場

胆振地区水産技術普及指導所

豊浦町農政水産課

豊浦漁業協同組合礼文支所

● 目 的

近年、噴火湾における養殖ホタテガイの付着物が増加している傾向にあり、ホタテガイの成長に大きな影響を与えるとともに、廃棄に多大な労力と経費が掛かっている。主たる付着物はイガイ（ムラサキイガイ）であるので、ホタテガイ耳吊り連の育成水深帯を調節することにより、イガイラーバの付着を抑制できると仮定し、実証試験を実施した。

● 調査方法

平成14年4月19日に豊浦漁協礼文沖0.5マイル、水深32mのホタテガイ養殖施設にて、ホタテガイ耳吊り連を浮沈操作用として水深9.5m以深に、また水深固定用として水深4.5m以深に10数連ずつ設置した。

毎月1回、両方の水深帯の連を1本ずつ採取し、連の上部、中部、下部から20個体ずつホタテガイを採取し、生物測定を行った。同時に付着物の種類と重量も測定した。5月から浮遊幼生調査を毎月実施し、イガイラーバの減少を確認して、浮沈操作用の連を8月30日に浮上させた。

● 成 果

(1) ホタテガイの付着物

ホタテガイ1個当たりの付着物重量は9月以降急激に増加し、出荷盛期の1月では固定連で210.8g/個となって最高の値を示した。それに対し、浮沈連では144.3g/個と固定連の70%以下であった（図1）。付着物の種類別ではイガイが一番多く、続いてエゾカサネカンザシ、カイメン、ヒドロゾア他であった。特に上部ではイガイの成長に伴い、重量が急激に増加した。また、水深が浅いほどイガイの付着が多かった（図2）。

(2) ホタテガイの成長

4月の調査開始時では平均殻長70.2mm、平均重量38.8gであったが、8月までは浮沈連も固定連もほとんど差はなく成長した。9月から11月にかけて殻長、重量共に固定連のホタテガイが浮沈連の値を上回った。しかしながら、12月以降は浮沈連のホタテガイの成長が良く、最終的に平成15年3月では固定連では各々109.9mm、155.5g、浮沈連では112.1mm、162.5gとなり、浮沈連のホタテガイが固定連のものより、殻長、重量とも上回った（図3、4）。

● 展望と課題

今回の調査でイガイラーバの浮遊期間に育成水深帯を深くすることによって、付着物を抑制できることが確認され、ホタテガイの成長も通常の水深帯より良好な結果となった。より効率的な付着物回避手法を検討するためには、育成水深帯をより深く設置した試験を行い、付着物量やホタテガイについて成長の資料を蓄積する必要がある。

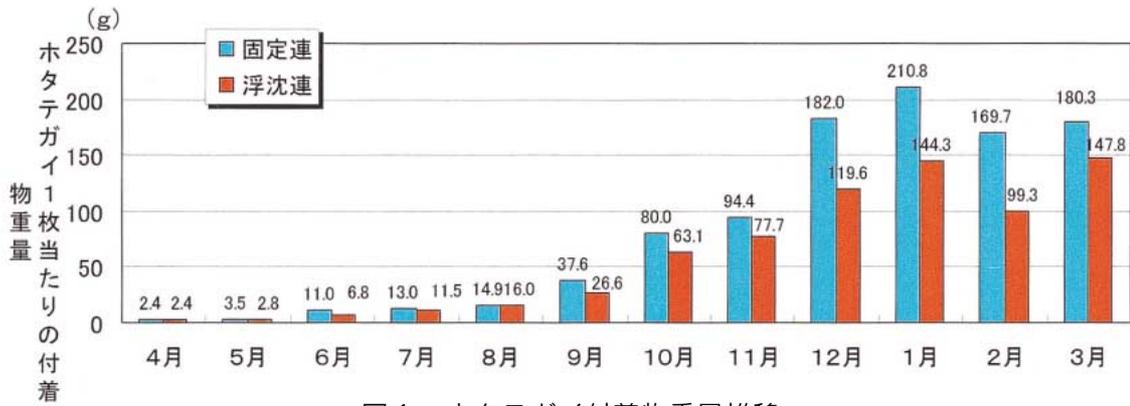


図1 ホタテガイ付着物重量推移



図2 連別ホタテガイ付着物 (平成15年1月16日)

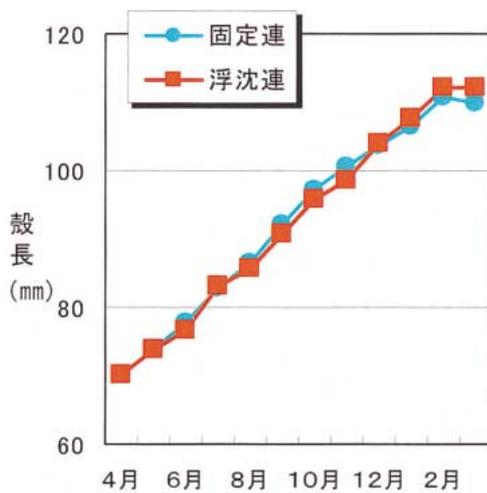


図3 ホタテガイ殻長変化

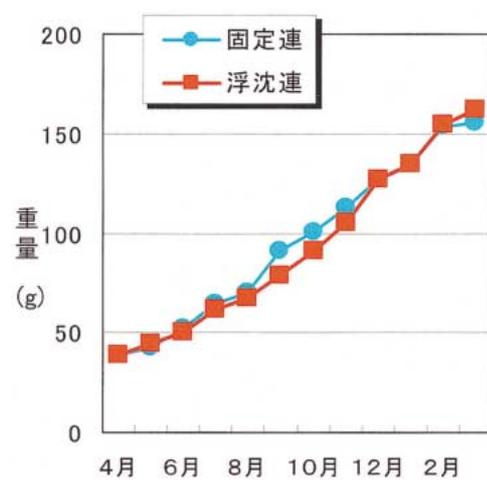


図4 ホタテガイ重量変化

【連絡先】 函館水産試験場室蘭支場水産業専門技術員
 住所 室蘭市舟見町1丁目133-13
 電話 (0143) 22-2327 FAX (0143) 22-7605